

疾病治療学B

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態と なって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、消化器疾患、血液疾患、骨・筋肉疾患、腎・泌尿器疾患に ついて学習する。

■**到達目標**：各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護 実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。

■**担当教員**：

永坂 敦

■**授業計画・内容**：

第1回 消化器(1) 胃

第2回 消化器(2) 大腸

第3回 消化器(3) 肝

第4回 消化器(4) 胆・膵

第5回 臨床免疫学・アレルギー、アナフィラキシー・膠原病総論

第6回 膠原病各論(関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、筋患、その他)

第7回 血液疾患(1)

第8回 血液疾患(2)

第9回 変形性関節症、関節リウマチ、脊椎・脊髄疾患

第10回 抹消神経、骨粗鬆症、骨折

第11回 スポーツ障害、骨・軟部腫瘍

第12回 腎疾患(1)

第13回 腎疾患(2)

第14回 泌尿器疾患(1)

第15回 泌尿器疾患(2)

■**教科書**：『臨床病態学』第1・2・3巻／(ヌーヴェルヒロカワ)

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：定期試験により評価。なお、定期試験問題は、担当教員の各分野について総合問題として国試形式で 出題する。

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合 (%)
定期試験	◎		100
授業態度		注意しても私語を繰り返す場合は欠席とみなすことがあります	
出席		2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：臨床現場で遭遇する患者さんは授業で示される典型的なものばかりではあ りません。教科書以外の文献や資料などにも積極的に目を通してこれを機会に幅広く関連疾患を理解していくことを希望しま す。